

2025年度 卒業生アンケート調査結果概要

(調査対象：就職後2年目を迎えた4期生)

実施期間：2025年7～8月

1. 回答者概要

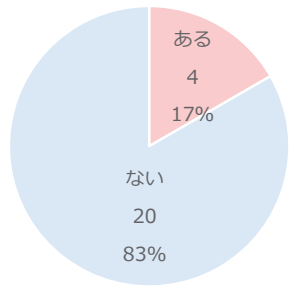
調査対象：2023年度卒業の4期生 97名

回答数：24名 / 97名 (回答率：24.7%)

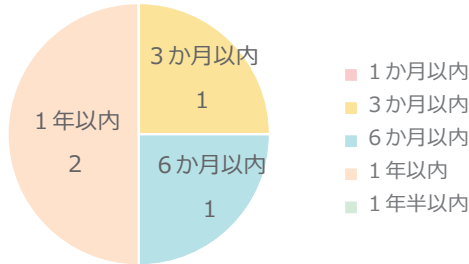
調査方法：Web調査 (Forms)

2.アンケート回答内容

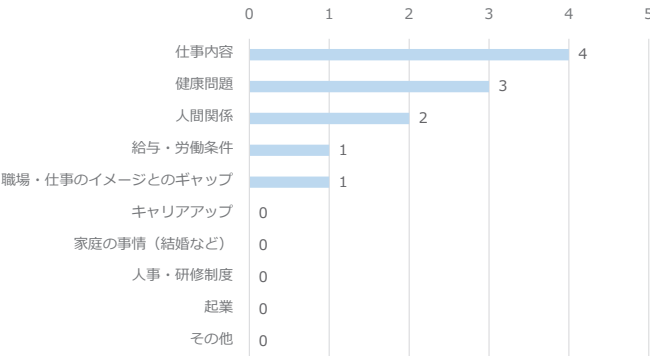
Q1 .転職・離職した経験はありますか？



Q2-1.転職・離職の時期はいつですか。
卒業後からの期間でお答えください。



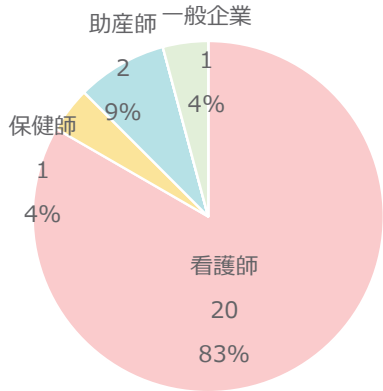
Q2-2.転職・離職した理由をお答えください。（複数選択可）



3

2.アンケート回答内容

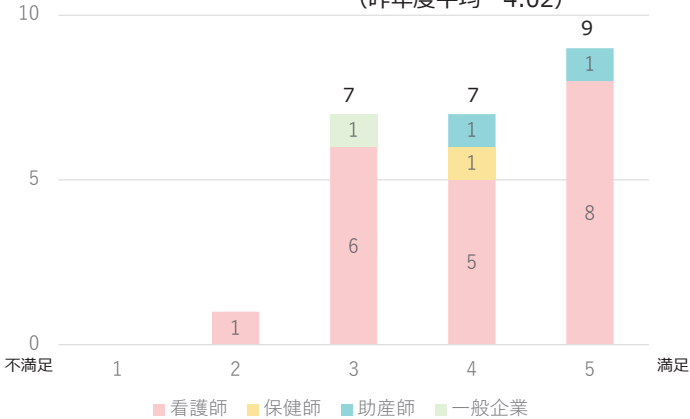
Q3. 現在の就業状況を教えてください。



【Q3】
看護師が20名（83%）と最も多く、次いで助産師2名、保健師・一般企業1名ずつであった。
Q1で離職したと回答した4名のうち、3名が看護師へ、1名が一般企業へ転職していた。

Q4. 現在の就職先への満足度を教えてください。

（1～5 5段階評価） 平均 4.00
（昨年度平均 4.02）

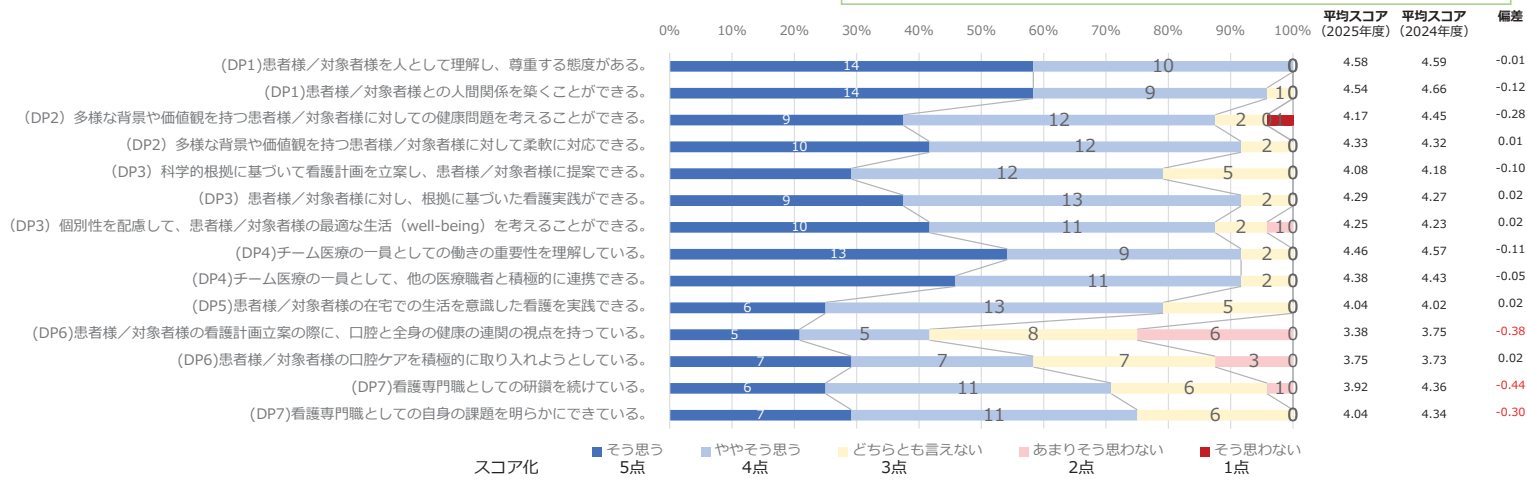


【Q4】
16名（67%）が「4：やや満足」～「5：満足」の肯定的な回答をしており、「3：どちらとも言えない」が7名（29%）、「2：やや不満足」が1名（4%）であった。
肯定的な回答の割合は、昨年度の77%から10%低下しているが、「3：どちらとも言えない」を含めて、96%が大きな問題なく就業していると考えられる。

4

2.アンケート回答内容

Q5-1.以下に示す能力が今身に付いていると思いますか。



【高評価であった項目】

- ・DP1「患者を人として理解し、尊重する態度」（平均スコア：4.58）、DP1「患者との人間関係構築力」（平均スコア：4.54）
患者様を尊重する姿勢に関しても実際の人間関係構築について9割以上が能力が身に付いていると肯定的回答であり、就職先アンケート（就職先アンケート）でも高評価であった。
- ・DP4「チーム医療の重要性理解」（平均スコア：4.46）「DP4 他職種と積極的に連携」（平均スコア：4.38）
臨床現場においてチーム医療の意義を十分に理解し、他職種との協働に積極的に取り組もうとしている卒業生が多いことがうかがえる。

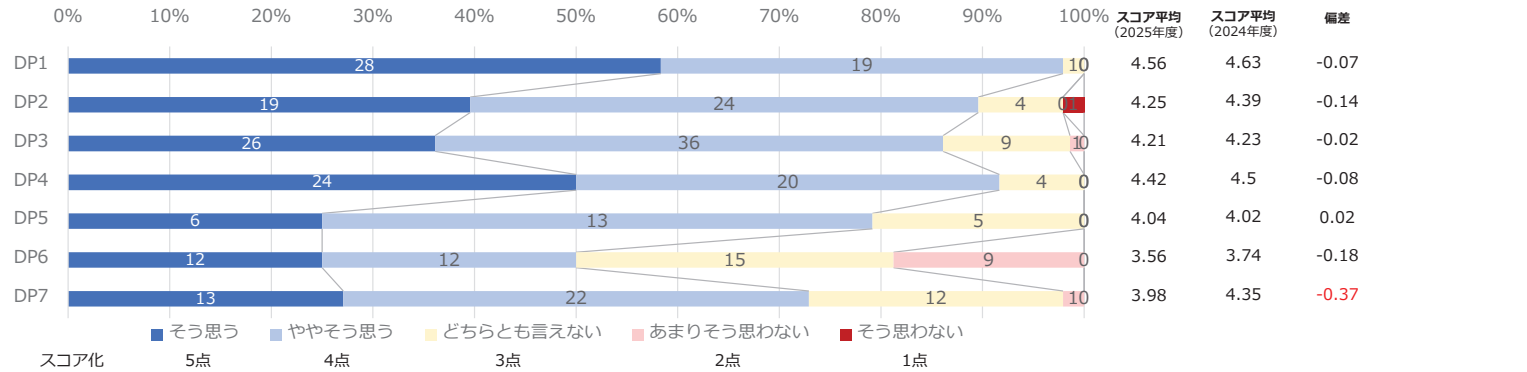
【低評価であった項目】

- ・DP6「口腔ケアの視点」（平均スコア：3.38）、DP6「口腔ケアの積極的な実践」（平均スコア：3.75）
本項目は全体の中で最も低い評価となっており、例年低い傾向にある。就職先アンケートでも同様に低い傾向にあった。

2.アンケート回答内容

Q5-2.以下に示す能力が今身に付いていると思いますか。

(DP合算値)

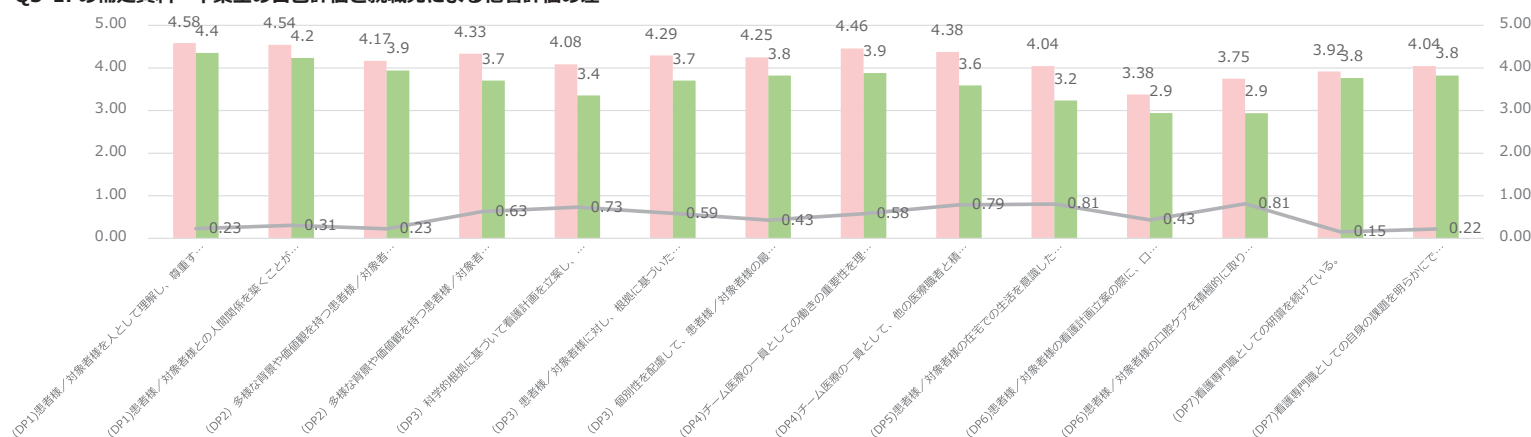


- ・DP1「患者との人間関係構築力」、DP3「科学的根拠に基づく看護」、およびDP4「チーム医療の理解と連携」に関しては、いずれも高水準かつ安定した評価となっており、卒業生が看護の基盤となる力を着実に身につけているという実感があることがわかる。

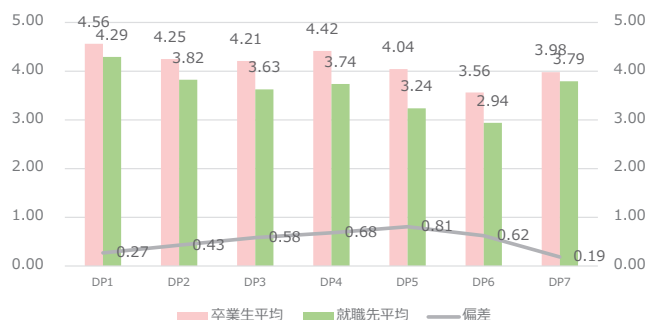
- ・DP2「多様な背景や価値観への理解と対応」については、昨年度と比較して若干の低下が見られたものの、約9割が肯定的に回答しており、依然として高評価を維持している。

- ・DP6「口腔ケア」およびDP7「看護専門職としての研鑽」に関しては、前年より低下が見られた。特にDP6では、肯定的回答が全体の約5割にとどまり、2割が否定的に回答している状況から、卒業生にとって習得の難易度が高い領域であることが示唆された。DP7においても、自己成長への意識や課題認識力に課題が見られ、卒業後の支援体制の充実が求められる。

Q5-1. の補足資料 卒業生の自己評価と就職先による他者評価の差



Q5-2. の補足資料 卒業生の自己評価と就職先による他者評価の差



卒業生の自己評価と就職先アンケートでの他者評価を比較したものである。

・すべてのDPにおいて卒業生の自己評価の方が高く、他者評価とは0.19～0.81の差があった。

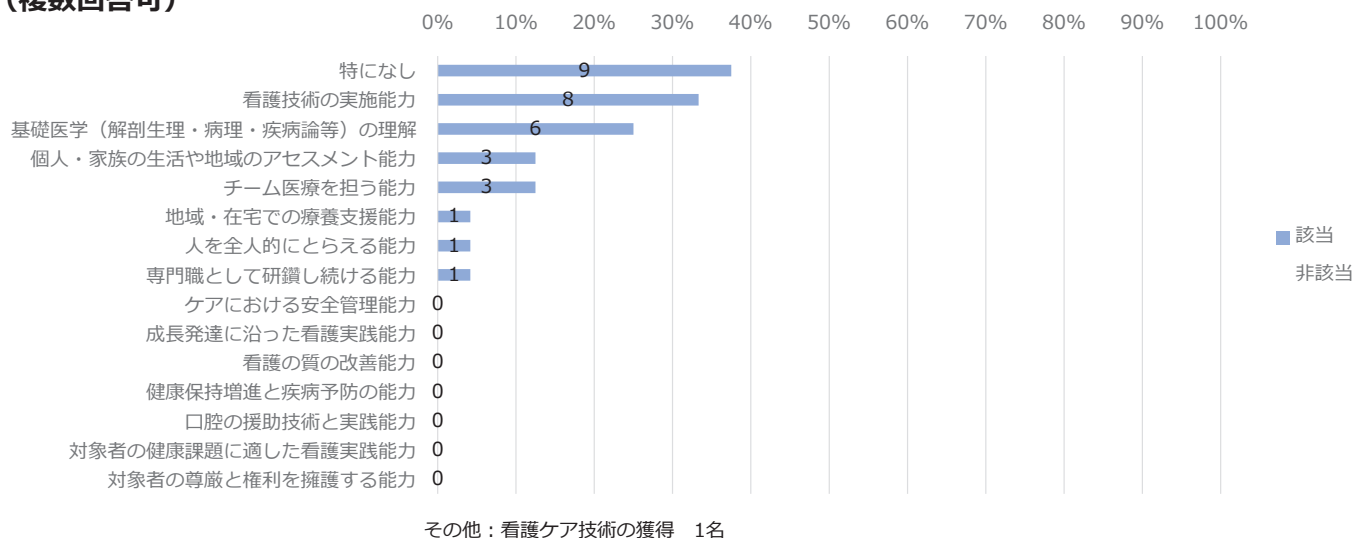
・DP5（偏差0.81）、DP4（偏差0.68）、DP3（偏差0.58）の3項目においては、いずれも卒業生の自己評価が4.0以上と高く、卒業生自身がこれらの能力に対して一定の自信を持っていることがうかがえる。しかしながら、就職先の他者評価との間に大きな偏差が見られることから、臨床現場ではこれらの能力に対してより高い水準の実践力が求められている可能性が示唆される。

・DP1（偏差0.27）、DP7（偏差0.19）では自己評価と他者評価では大きな乖離は見られなかった。特に、DP1「患者との人間関係構築力」では、卒業生・就職先ともに高評価を示しており、教育課程で育まれた対人関係力が臨床現場でも安定して発揮されていることがうかがえる。

7

2. アンケート回答内容

Q6. 本学の教育で足りなかったと思われるものをご回答ください。就職後の実感として回答ください。（複数回答可）



・「特になし」が最も多く9名（38%）であり、一定数の卒業生が教育課程に対して概ね満足していることがうかがえる。

・次いで「看護技術の実施能力」8名、「基礎医学（解剖生理・病理・疾病論等）の理解」6名が多かった。この「看護技術」や「基礎医学」に関する項目は、日々の業務の中で繰り返し求められる力であり、教育課程で教授されているが、実務での必要性を十分に理解しないまま修得が不十分となるケースも見られる。学生が実務とのつながりを意識できるよう、継続的に教育内容に現場の視点を積極的に取り入れる工夫が求められる。

8

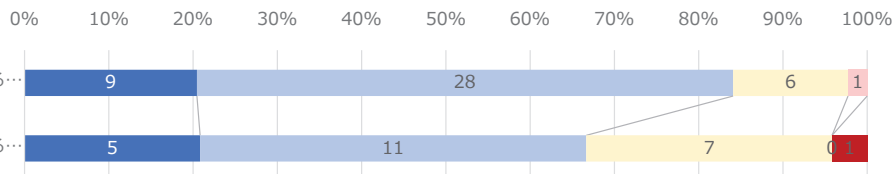
2.アンケート回答内容

Q7.自分の能力や意識についてお聞きします。

Q7-1.

【2024年度】就職先組織の人材ニーズや所属部署での期待に応えている…

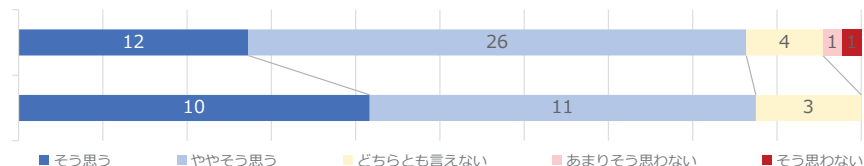
【2025年度】就職先組織の人材ニーズや所属部署での期待に応えている…



Q7-2.

【2024年度】本学の看護職育成教育に満足できたと思いますか。

【2025年度】本学の看護職育成教育に満足できたと思いますか。



【Q7-1】

・「Q7-1.貴組織の人材ニーズや期待に応えているか」の設問では、「ややそう思う」と感じる割合が前年より減少し、肯定的回答は約15%低下した。
一方で、「どちらとも言えない」「そうは思わない」といった回答が増加しており、職場での役割認識や自己評価に迷いを抱いている様子がうかがえる。

【Q7-2】

・本学の教育への満足度については、「そう思う」の回答が前年より増加し、8割以上が肯定的に評価している。否定的な回答は見られなかったものの、「どちらとも言えない」とする回答が一定数存在している。

9

2.アンケート回答内容

Q8.自己の成長のために実践していることについて回答ください。（複数回答可）

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

プリセプターなどの先輩に積極的に質問したり、指導を依頼すること

院内研修会・勉強会に参加

専門書による研鑽

看護協会などの院外研修会・勉強会に参加

特になし

看護研究

学会に参加

学会で発表

■ 該当
■ 非該当

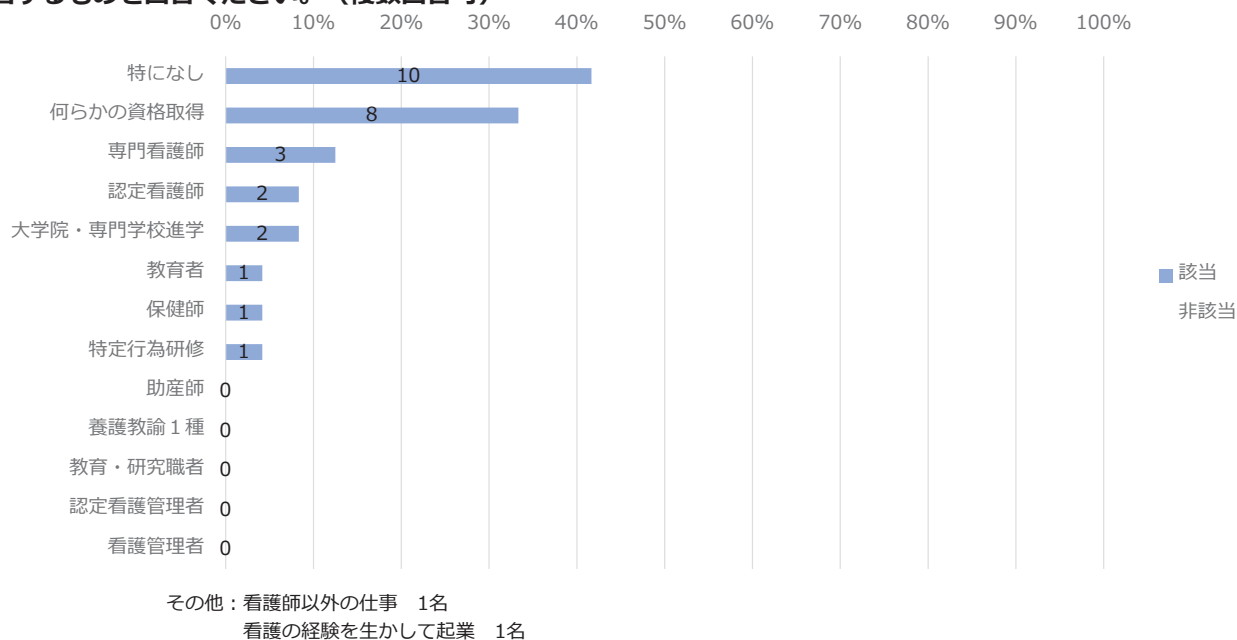
・「プリセプターなどの先輩に積極的に質問したり、指導を依頼すること」が17名（71%）と一番多く、続いて「院内研修会・勉強会に参加」が13名（54%）であった。

・プリセプターによる指導や院内研修など、現場での直接的な学びを中心に自己成長を図っている傾向が強い。一方で、専門書や院外研修などの自主的・個別的な学びは少数にとどまっている。

10

2.アンケート回答内容

Q9.今後（5-10年後）の キャリアアップに向けて、現時点で考えているものや予定しているものがあれば、該当するものを回答ください。（複数回答可）

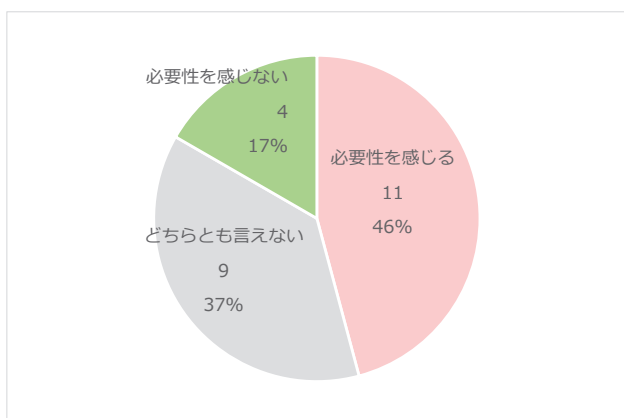


・「特になし」の回答が最も多く42%（10名）、次いで「何らかの資格取得」33%（8名）となっていた。昨年より意識はやや向上しているものの、就職2年目では将来を考える余裕が少ないと推察され、大学在学中にキャリアプランや選択肢を示す支援が求められる。

2.アンケート回答内容

Q10-1.大学を卒業し社会人として働いていく中で、「社会人の学びなおし*」の必要性を感じますか？

*社会人になってから自分の仕事に関する専門的な知識やスキルを学ぶこと



Q10-2.必要性を感じると答えた方に質問します。

どのようなことを学びなおしたいと思いますか。

